

環境自治体会議全国大会「ひおき会議」参加報告

日時：2013年5月30日13:00～6月1日12:00

場所：鹿児島県日置市 全体会場：日置市伊集院文化会館（分科会は各会場にて）

出席者：＜宇部市＞環境政策課 茂刈、河内、高橋

（敬称略） 資源循環推進室 村岡

＜環境まちづくりサポーター＞三牧、古林、山根、近藤、諸星

＜UNCCA＞溝田、仰木、木原、亀田（文責）

1. 会議日程

● 5月30日(木)：全体会

基調講演：「吹上浜を中心とした生物と環境との関わり」四宮明彦（元鹿児島大学水産学部教授）

首長パネルディスカッション：

「人や環境資源を生かし、協働で進める持続可能な地域づくり～元気な首長大集合～」

- | | | |
|------------------------|--------------|------|
| ・「人と四季がかがやく雪のくに」を目指して | 新潟県魚沼市長 | 大平悦子 |
| ・暑さ対策も市民とともに | 岐阜県多治見市長 | 古川雅典 |
| ・市民協同による新たなまちづくり | 大阪府交野市長 | 中田仁公 |
| ・宮崎県 綾町 ユネスコエコパークに登録！！ | 宮崎県綾町 | 前田 穰 |
| ・ウミガメの里吹上浜を活かした地域づくり | 鹿児島県日置市長 | 宮路高光 |
| ・ひおき会議の論点提起 | 環境自治体会議 事務局長 | 中口毅博 |

● 5月31日（金）：10分科会（各会場）、交流会、ウミガメパトロール（希望者）

● 6月1日（土）：全体会

記念講演：「ないものねだりをやめてあるものさがしー地域を元気にする地元学のすすめー」

講師：地元学ネットワーク主宰 吉本 哲郎氏

パネルディスカッション：

「地域資源の活かし方・つなぎ方ー持続可能な地域づくりの秘訣を語る！」

ひおき会議宣言採択／次期開催地挨拶（北海道ニセコ町）

2. 会議報告

①基調講演：「吹上浜を中心とした生物と環境との関わり」

- 鹿児島県では1988年に全国に先駆けてウミガメの保護条例が施行されパトロールや保全の動きが地元吹上町を中心に県下市町村にも広がった。
- 希少種リュウキュウアユの生息環境の調査を通じて、河川改修、道路整備、土地造成による赤土流入が河川と内湾での生息場、餌場、産卵場を荒廃させ、また河口に整備した港湾施設が仔魚の生息環境を狭めている。
- 自然と調和した川づくりということで「近自然工法」が紹介され、この工法が日本の多くの場所で活用されることを祈っている。

②首長パネルディスカッション：

5首長から自市町での取り組みについて紹介とディスカッション

③分科会（各分科会の概要は会議資料集参照） 下記の分科会に参加

第二分科会テーマ「エネルギー」	高橋、諸星、溝田、亀田
第四分科会テーマ「水環境」	山根
第五分科会テーマ「生物多様性」	河内、三牧
第六分科会テーマ「廃棄物、資源循環」	村岡、木原
第九分科会テーマ「環境学習」	茂刈、近藤、仰木

④ 交流会

開式に続いて「わがまちの政策自慢」の表彰式があり、宇部市の「地域環境力のアップ」がひかり賞を受賞

⑤ウミガメパトロール

アカウミガメが上陸した痕跡はあったが産卵光景は見られず。前日産卵分の卵を見学。

⑥記念講演：「ないものねだりをやめてあるものさがしー地域を元気にする地元学のすすめー」

- 足元を知ること（一即全）：自分たちの足元を調べ、考え、地域づくり、モノづくり、生活作りに役立て、町や村の元気をつくっていく。
- ゼロ予算化のすすめ（お金をかけないで知恵を振り絞り、汗を出す）
- これまでの実績と、経験を楽しく紹介

⑦パネルディスカッション

- 最初にきらり大賞を受賞した北海道ニセコ町長より「第2次環境基本計画の策定」について紹介
- その後、持続可能な地域づくりの秘訣を探るについての討論
- 「残して活かし、つないで生みだし、学んで助け合う」といった観点からすべての政策を点検・評価する仕組みが必要。

⑧ひおき会議宣言の採択

・実行委員長が読み上げ宣言。壇上に委員全員が登壇。

1. 「守って生かす」
2. 「つないで生み出す」
3. 「学んで行動する」
4. 「信じて助け合う」

⑨次期開催地挨拶（北海道ニセコ町）

- ・2014年5月22日(木)～5月24日(土)
- ・ニセコ町は4,000人収容可能な宿泊施設があり、近辺市町を入れると12,000人程度可能
- ・風光明媚なりゾート地

3. 参考：ひおき会議実行委員会について（委員の方より聞き取り）

このクラスの会議、イベントを準備するための参考として聞き取り。

A. 設立

- ・2年前から実行委員会を結成し準備を進める。委員は約30名。
- ・委員会の実施ペースは
2011年：2ヶ月に1回、2012年：1ヶ月に1回、2013年：1ヶ月に2回
- ・分科会の打合せも委員会内で行なった。

B. プログラムの作成

プログラムについては東京事務局の指示によるもので、地域の意見を聞き入れてもらうのは難しかった。

4. 市民参加者アンケートの抜粋（評価はばらついています）

- ① 具体的な取組の事例をもっと多くして欲しかった。自治体会議なので少し肩ひじを張ったような印象を受けた。会場が離れており、いろいろな会場をちょっと覗いてみようといったことができなかった。
- ② 会議の方向性、この会議を経てどうすればよいのかいまいちわからなかった。パネルディスカッションを通じて取り組みや課題を認識することができたが、満足いくものではなかった。
- ③ プロジェクターの画面の質が悪く、せつかくの良い話の内容をうまく理解できないところが多くあった。盛り沢山で議論がほとんど深まらないのが残念。一方的すぎる。しかし全国には素晴らしい首長がたくさんおられて、素晴らしい成果もあることがよくわかった。
- ④ フィールドワークが少ない。事例紹介はどれも身近な題材にしてあり良かった。
- ⑤ それぞれの自治体の取り組みを知ることが出来て、良かった。環境と命のつながりを啓蒙する必要性を一層強く感じた。
- ⑥ 環境に関するほとんどの分野で議論が尽くされていた。多くの人々のサポートと実行委員協力を敬意を表したい。
- ⑦ 第2分科会の発表の中で「日本の自治体内において横断的な組織が創られるケースは少なく、担当者は数年で変わってしまうため、計画の、遂行が難しいだけでなく、経験が蓄積されない。また地方自治体の相互の情報を交換する場が少なく、海外の都市との経験共有の機会が殆ど無いと言えよう・・・」等々誠に耳に痛い意見であった。

5. 感想（文責者）

これだけの会議を主催した環境自治体会議の実力を再認識した。又、引受け先の日置市が市を挙げて運営にあたっていたことに感銘を受けた。今回のツアーは会議の参加のみが目的でなく、各種会議等で活躍できる人を育て、実行委員会や企画、運営の手法を学ぶことも目的の一つであったが2泊3日の会議参加で、大変さだけは理解できたが、企画・運営を学ぶところまで達成出来ていないと思う。宇部市でこの規模の会議を引受けるとすれば、周到な事前準備とサポートボランティアの確保・育成に相当な覚悟が必要との感を強くした。

6. 写真

参加者集合写真



全体会場 参加者



宇部市がひかり賞受賞



パネルディスカッション



ひおき宣言採択